

旧矢崎商店

3件登録へ

下諏訪

国有形文化財 西洋と近代和風融合



西洋と近代和風建築が融合した旧矢崎商店主屋



重厚な土蔵造りの文庫蔵①と主屋と呼応する独特な外観を有する納屋



文化庁の文化審議会文化財分科会は18日、江戸から昭和にかけて建造された27都道府県の建造物130件（県内7件）を国の登録有形文化財として登録するよう文部科学大臣に答申した。諏訪地方では下諏訪町御田町通りにある昭和初期に建てられた西洋建築と近代和風建築が融合した旧矢崎商店（旧生系問屋屋敷）店舗兼主屋と文庫蔵、納屋の3件が登録される見込み。今後官報告示を経て正式登録される予定で、県内登録件数（建造物）は656件となる。

（浜武司）

旧矢崎商店の店舗兼主屋は 木造2階建てで、通りから奥1936（昭和11）年の建造。まった部分は建築当初の姿を

残す近代和風建築、通り側は戦中の建物疎開で解体され1955（昭和30）年に新たに増築された部分で、最新デザインを取り入れたオール・デコ調の外観を有する。

竣工以来、戦争の影響などを受けて改築が繰り返された建物は、戦後の下諏訪の繁栄を色濃く残した看板建築の外観で、西洋と日本の二つの価値観が混ざり合う独特な建造物として評価された。

内部は創造性に富んだ近代和風建築様式。1階は和室や居間、客間、化粧室、台所、便所棟などがあり、2階は座敷や和室、物置などが配されている。内装は木材にもこだわった極めて凝った造りで、独創的な建具が随所に見られ、施主の遊び心、大工の質の高

い技術が見て取れる。敷地内東側の文庫蔵は、主屋と同じ年に建てられたとみられる。木造2階建てで内部は柱に横板を落とし込み、柱や最下段の壁板にクリを用いている。階段下に棚を造作するなど丁寧な造りの土蔵で、家財道具を保管する納屋として使われていたものと推定されている。

敷地内北東隅の納屋は、建築年は不明。不整形平面の平屋一部2階建てで、屋根はトタンぶき。外壁はモルタル洗出しで、主屋と呼応する洋風な独特の外観を有する。当時は味噌蔵として使われていたと伝えられ、一部は簡易の物置としても使われていたとみられる。

町では2022年に移住定住促進のための活用などを目指すに旧矢崎商店の土地、建物を取得。移住定住促進調査委員会を設置して利活用を検討し、23年度に活用指針をまとめた。文化的価値を生かした活用の提案があったため、並行して信大工学部建築学科の梅干野成央准教授の研究室に建築的、歴史的価値についての調査を依頼した。

町では調査結果今年1月に登録有の登録を申請。注は、今年度中に主施設計を行い、26に着手する計画。は公共施設として始する予定だとい町産業振興課移室では「建物と」価値だけでなく、とひもつけられた「とした」とし、としての第一歩で化につながる活用きたい」と話して旧矢崎商店の歴的価値を伝えるな取り組む御田町立同代表の猪股有佐「長く住民に愛さ物で歴史と文化がる。学術的、建築れたことはとても今後の活動の励み話している。